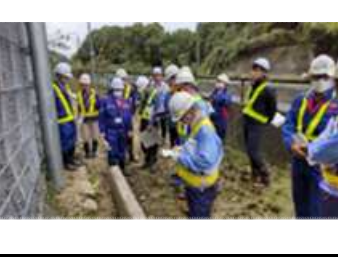


【令和7年度】道路防災ドクター現地診断内容(1/2)

NO.	路線名	箇所名	現地診断日	診断ドクター名	変状内容	診断内容	診断後の実施内容	状況写真
1	国道42号	一般国道42号串本町姫地先盛土変状	令和7年10月27日	京都大学 大西名誉教授 関西大学環境都市工学部 楠見特命教授 京都大学経営管理大学院経営管理研究部 肥後教授	盛土区間で、路面沈下によるクラックの発生が確認され、路面はオーバーレイによる補修を行っているが、クラックが繰返し発生している。法尻部の小型擁壁にはひび割れ、沈下が生じている。	当該盛土は、道路拡幅時に造成された盛土が長期的にすべりを生じたもので、崖錐層でのせん断変位や降雨による浸食・地下水供給が要因と推定される。大きな地震時を除き、急激な変動の可能性は低いが、ボーリング調査や計測監視により挙動把握が必要である。短期的にはオーバーレイ、長期的には支持力確認と機能再評価を行い適切な対策を検討すべきである。	診断に基づき調査・対策設計を実施中。	
2	国道158号 永平寺大野道路	永平寺大野道路路上地区(12.2kp)盛土変状	令和7年10月30日	福井大学 荒井名誉教授 立命館大学総合科学技術研究機構 深川招聘教授 福井大学学術研究院工学系部門工学領域建築建設工学講座 藤本准教授	道路盛土舗装面にクラックが発生した。過去から繰返し発生している経緯がある。	当該盛土は水浸沈下や基礎地盤の圧密沈下が継続する可能性がある。安全率も低く地すべりの可能性を検討しておくこと。ただし直ちに変形が進行する状況ではなく、継続的な計測観測により監視することが重要である。ボーリング等で状況把握を行い、将来的に地下水排除工や押え盛土などの対策を慎重に検討するため、調査結果が出た時点で、もう1回議論するほうがよい。	診断に基づき調査方法検討済み。防災カルテ点検を継続で対応中。	
3	国道25号 名阪国道	名阪国道奈良市米谷町切土法面ランクダウン検討(N025A086)	令和7年11月13日	大阪産業大学建築・環境デザイン学部 小田教授 関西大学社会安全学部 小山教授 京都大学経営管理大学院 大津特命教授 神戸市立工業高等専門学校都市工学科 鳥居教授	対策工(落石防護柵)が完成し、3年経過した。落石は落石防護柵で対応可能と思われるため、要対策からカルテ対応へのランク変更を行いたい。	法面上部には人頭大の転石や露岩・浮石が確認されるが、待受けおよび高エネルギー吸収型の落石防護柵が整備されており、落石発生時も十分対応可能と評価されている。このため対策の緊急性は低く、ランクダウンで問題無い。今後は法面上方の状況について継続的な点検を実施し、変状の有無を監視することが重要である。	防災カルテ点検を継続で対応中。	
4	国道25号 名阪国道	名阪国道奈良市米谷町切土法面ランクダウン検討(N025A092)	令和7年11月13日	大阪産業大学建築・環境デザイン学部 小田教授 関西大学社会安全学部 小山教授 京都大学経営管理大学院 大津特命教授 神戸市立工業高等専門学校都市工学科 鳥居教授	対策工(崩壊土砂防護柵)が完成し、本線への影響は低くなった。このため要対策からカルテ対応へのランク変更を行いたい。	渓流では土砂流出が主であり、防護柵により対応可能と評価され、現時点で大きな危険性は低い。排水施設には土砂が堆積しやすく、定期的な清掃・維持管理などメンテナンスが必要である。今後は降雨と土砂移動の関係や沢幅の変化を継続的に監視・確認しながら管理するのが良い。以上より「要対策」から「カルテ対応」へのランクダウンが妥当である。	防災カルテ点検を継続で監視対応中。降雨後の状況調査、沢幅の広がりも含め、引き続き調査を行う。清掃作業と維持作業は連携して対処していきたい。	
5	国道25号 名阪国道	名阪国道奈良市米谷町土石流箇所ランクダウン検討(N025E013)	令和7年11月13日	大阪産業大学建築・環境デザイン学部 小田教授 関西大学社会安全学部 小山教授 京都大学経営管理大学院 大津特命教授 神戸市立工業高等専門学校都市工学科 鳥居教授	対策工(土石流対策防止柵)が完成し3年が経過した。流域内の土砂流出に対処可能と思われるため、要対策からカルテ対応へのランク変更を行いたい。	沢内にはやや大きな転石が存在するものの、傾斜が緩くポケット状地形もあるため、仮に土石流や倒木が発生しても道路本線への影響は小さいと考えられる。このため対策の緊急性は低く、上流の状況や石の動きを定期監視することを条件付きで、「要対策」から「カルテ対応」へのランクダウンは問題ない。	防災カルテ点検を継続で監視対応中。	

※診断内容については、当日の現地調査で得られた情報に基づくものであり、今後の調査等の新たな情報等により診断結果が変更になる可能性があります。

【令和7年度】道路防災ドクター現地診断内容(2／2)

NO.	路線名	箇所名	現地診断日	診断ドクター名	変状内容	診断内容	診断後の実施内容	状況写真
6	国道25号 名阪国道	名阪国道奈良市中畑町盛土法面ランクダウン検討(25-21)	令和7年11月13日	大阪産業大学建築・環境デザイン学部 小田教授 関西大学社会安全学部 小山教授 京都大学経営管理大学院 大津特命教授 神戸市立工業高等専門学校都市工学科 鳥居教授	対策工(法枠工下の大規模な空充填、縦排水溝補修)が完了。10年以上経過したが特に問題は発生していない。要対策からカルテ対応へのランク変更を行いたい。	盛土法面の変状原因は縦排水の浸食であったが、現在は排水改修により通常降雨に対して十分機能し、侵食の進行は抑えられている。一方、小段排水は土砂で閉塞しており、盛土表面の浸食対策と併せて定期的な清掃・維持管理が必要である。これらの対応を前提に、ランクダウンで問題無い。	防災カルテ点検を継続で監視対応中。	
7	国道25号 名阪国道	名阪国道天理市福住町盛土法面ランクダウン検討(25-7)	令和7年11月13日	大阪産業大学建築・環境デザイン学部 小田教授 関西大学社会安全学部 小山教授 京都大学経営管理大学院 大津特命教授 神戸市立工業高等専門学校都市工学科 鳥居教授	令和2年度に対策工(擁壁や橋台の亀裂補修、盛土法面、路肩、縦排水工の整備等)が完成し、変状は認められない。要対策からカルテ対応へのランク変更を行いたい。	石積み擁壁の目地開きは橋台挙動との関連確認が必要で、地下水の影響により背面盛土の細粒分流出や空隙化が懸念される。水抜き対策や路面からの浸水防止を講じた上で、水位・変位の継続監視が重要である。路面沈下は橋台変状に起因と推測されし、今後補修検討が必要であると思われる。対策をし継続監視を今後もする条件付きで「要対策」から「カルテ対応」へランクダウンできる。	防災カルテ点検を継続で監視対応中。対策設計を令和7年度に実施。	
8	国道483号 北近畿豊岡自動車道	一般国道483号(北近畿豊岡自動車道)和田山JCT付近の横断アーチカルバートの変状	令和7年12月3日	神戸大学都市安全研究センター 橋教授 神戸大学大学院工学研究科市民工学専攻 欽田教授 明石工業高等専門学校都市システム工学科 鍋島教授	アーチカルバート部に目地の開きやひび割れおよび取付擁壁のはらみ出しが発生している。	アーチカルバートは斜交道路による不均一荷重や土被り不足、軟弱地盤の不同変位により変状が生じ、頂部に亀裂も確認されている。一方、路面への影響は現時点で小さい。雨水浸透防止や目地補修などの対策が必要である。今後は継続的なモニタリングを行い、変状の進行状況を確認する。取付擁壁のはらみ出しも進行時には影響が懸念され、水抜き等の対応が求められる。他地区もあるならば、様子を見ておくことが望ましい。	定期点検の継続で対応中。	
9	国道1号	東山トンネル本体及び法面調査対策方針について	令和7年12月12日	京都大学大学院工学研究科 岸田教授 立命館大学理工学部 小林教授 和歌山工業高等専門学校環境都市工学科 林教授	トンネルの滋賀側坑口上方の切土法面に設置されたアンカー工は、健全と思われた箇所でも付着切れしている状況であった。また、トンネル点検・調査の結果から、現在検討している補修等対策内容について伺いたい。	法面アンカーは旧式で一部に変状が見られ、地下水の影響も大きい。既往調査の再確認やボーリング等による地盤・地下水状況の把握が必要とされる。山全体としては変動している可能性はある。トンネルは流れ盤構造による水圧の影響が懸念され、覆工背面の空洞や地質の詳細調査が求められる。鉄板やアンカーの劣化・落下リスクもあるため、排水対策と連携した慎重な施工と継続的な監視が重要である。	のり面は地質調査と共に、地下水分布性状についても調査していきたいと考えている。トンネルは鋼板等撤去工事を実施予定。並行し撤去後の覆工コンクリートの点検を実施する。設計に関する留意点等、再度、道路防災ドクターの診断を希望。	

※診断内容については、当日の現地調査で得られた情報に基づくものであり、今後の調査等の新たな情報等により診断結果が変更になる可能性があります。

【令和6年度】道路防災ドクター現地診断内容(1／3)

NO.	路線名	箇所名	現地診断日	診断ドクター名	変状内容	診断内容	診断後の実施内容	状況写真
1	国道169号	国道169号上北山村西原地内の崩土による通行止めについて	令和6年4月2日	京都大学大学院 岸田教授	モルタル吹付区間の法面が崩壊し、崩壊土砂が道路に流入し、通行止めとなった。	斜面上の樹木が雨水浸透や樹根の割れ目への侵入、風による揺れが割れ目拡大を助長し、水みちが拡大したことにより岩塊崩落が発生したと推察される。また、地山の弱面や湿潤部への雨水浸透も要因と考えられる。今後は現地調査や監視、不安定岩塊の除去、既往資料収集を行い、その結果を基にボーリング調査等を実施して恒久対策を検討する。応急対応では斜面状況を確認し暫定通行の可否を判断するとともに、亀裂部への雨水流入を防ぐ処置が求められる。	助言内容を踏まえ、早急に対策を進めていく。	
2	国道425号	国道425号下北山村大瀬崩土	令和6年4月12日	京都大学大学院 岸田教授	切土法面にて岩盤が崩壊し、崩壊した岩塊が道路に到達し、通行止めとなった。	高角度で道路側へ傾く流れ盤に多数の割れ目が存在し、植物根の伸長により亀裂が拡大して岩盤崩落が発生したと推察される。周辺も同様の不安定箇所が多く、落石防止網の撤去は危険であるため、割れ目の頻度・方向・風化状況等を調査し危険箇所マッピングを実施する必要がある。対策はその結果を踏まえ、簡易吹付や不安定岩塊除去を行いながら検討する。落ち残りが明確であるため、作業中も落ち残りに注意する必要がある。	助言内容を踏まえ、早急に対策を進めていく。	
3	府道宇治木屋線	主要地方道宇治木屋線の路肩崩落について	令和6年5月31日	京都大学大学院 岸田教授	施工中の切土法面にて崩壊が発生し、その上部の現道路肩も崩壊した。	沢地形で集水しやすいところに、土砂化した風化頁岩を掘削したことが崩壊の要因と考えられる。今後はボーリングによる地質調査や周辺斜面の踏査を実施し、広域的な崩壊リスクを検証するとともに監視体制を強化する。対策としては崩壊面の養生による水の流入防止や排水機能の確保、路面亀裂の除去・復旧を行い、安全確保を図る。	・測量、調査、および対策工方針が決まり次第、対策工の妥当性についてご確認いただく。	
4	国道424号	国道424号 有田川町修理川崩土	令和5年6月7日	関西大学 小山教授	切土法面にて崩壊発生し、崩壊土石が道路に到達・閉塞し、通行止めとなった。	流れ盤構造の地質条件に加え、長年の風化や樹根の侵入による亀裂拡大、雨水浸透によって岩盤が劣化し崩土が発生した。今後は弱面に沿った崩壊拡大が懸念されるため、風化岩の除去や仮設防護柵による応急対策を実施すれば通行止めを解除して良い。恒久対策はボーリング調査を踏まえた対策工検討をおこなう。他地区で同様の災害形態が発生する可能性がありLPデータやSAR、熱赤外線画像等を活用した監視・点検の強化が必要である。	助言をもとに対応していきたい。	

※診断内容については、当日の現地調査で得られた情報に基づくものであり、今後の調査等の新たな情報等により診断結果が変更になる可能性があります。

【令和6年度】道路防災ドクター現地診断内容(2／3)

NO.	路線名	箇所名	現地診断日	診断ドクター名	変状内容	診断内容	診断後の実施内容	状況写真
5	国道1号	国道1号東山トンネル滋賀側坑口法面アンカー工の変状(I001G006)	令和6年9月27日	明石工業高等専門学校 鍋島教授 立命館大学総合科学技術研究機構 深川招聘教授 立命館大学工学部 小林教授 和歌山工業高等専門学校環境都市工学科 林教授	東山トンネルの滋賀側坑口上方の切土法面に設置されたアンカー工の複数個所に浮きが確認された。	斜面全体として当面の危険性は低く、対策の緊急性も高くないと評価されている。一方、アンカー頭部の浮きが局所的に集中しており、アンカー側の問題か、地盤側の問題か、原因解明が必要である。引抜き試験や地盤調査により健全性を確認し、問題があれば増し打ちなどの対策を検討すべきで、長期的には詳細調査が望まれる。	令和8年度以降調査及び設計を予定。診断後の追加調査結果について、再度診断を希望。	
6	国道2号	国道2号神戸市兵庫区地先 擁壁エランクダウン検討(K002G004)	令和6年10月17日	神戸大学 沖村名誉教授 神戸市立工業高等専門 鳥居学校 関西大学 小山教授	欠損補修など実施済みで点検においても顕著な変状の進行や沈下は認められていない。このため、要対策から防災カルテによる監視へランク変更を行いたい。	擁壁は傾斜や沈下がなく道路への影響は小さいが、震災後30年以上を経てコンクリートの劣化が見られ、補修が望まれる。舗装クラックは盛土劣化防止のため定期補修が必要で、排水機能の確認も求められる。蓋の破損部は応急対応するほか、衛星SAR解析で変位の有無を確認のこと。評価は要対策からカルテ対応へランクダウンしてよい。	・防災点検の継続で対応中。「要対策」判定は「カルテ対応」判定に変更。衛星SAR解析を実施し、東西方向の変位は乏しいことを確認。	
7	国道25号 名阪国道	名阪国道奈良市針町地先 擁壁エランクダウン検討(N025G067)	令和6年10月28日	京都大学大学院 岸田教授 京都大学経営管理大学院 大津特命教授 京都大学経営管理大学院 肥後教授	補修工事を実施後、擁壁部の天端および屈曲部の軽微な亀裂には新たな変状は見られないことから、要対策からカルテ対応へのランク変更を行いたい。	擁壁は継続観測により近年の変位増大が確認されず、孕み出しもなく安定している。路面水の浸入による盛土への影響が懸念されるため、排水機能の維持や表流水処理、必要に応じた地盤確認が重要である。以上より対策の緊急性は低く、点検範囲を拡大しつつ継続監視を行う前提で、要対策からカルテ対応へランクダウンしてよい。	定期点検の継続で対応中。「要対策」判定は「カルテ対応」判定に変更。	
8	国道42号	国道42号田辺市稲荷町地先 法面エランクアップ検討(T042A990)	令和6年10月31日	京都大学 大西名誉教授 大阪産業大学 小田教授 関西大学 楠見特別任命教授	盛土法面肩部の亀裂、および擁壁のひび割れが発生している	擁壁のひび割れは鉄筋腐食や背面地下水の影響と推定されるが、化粧構造物であり安定性に大きな問題はない。アンカーの変状点検を継続すること。盛土法面の亀裂は幅が大きいものの局所的で深刻ではなく、すべりも軽微である。開口部には碎石や砂で充填し経過観察すること。	助言いただいた方法で碎石を入れ、亀裂を埋める。定期点検の継続で対応中。	

※診断内容については、当日の現地調査で得られた情報に基づくものであり、今後の調査等の新たな情報等により診断結果が変更になる可能性があります。

【令和6年度】道路防災ドクター現地診断内容(3／3)

NO.	路線名	箇所名	現地診断日	診断ドクター名	変状内容	診断内容	診断後の実施内容	状況写真
9	国道2号	国道42号田辺市芳養地区 法面変状 稲荷町地先 (T042A984)	令和6年10月31日	京都大学 大西名誉教授 大阪産業大学 小田教授 関西大学 楠見特別任命教授	当該法面は建設時に度々変状が発生し、都度対策工を実施してきた箇所である。カルテ点検にて、一部の亀裂に累積性、法枠工の破断、水路工の変状、湧水、歩道部の沈下や変形が認められる。	起点側法面は、亀裂は局所的で徐々に変形は生じているが大規模崩壊の恐れは低い。破断部の補修と継続的な点検・計測拡充により変化把握が必要である。のり面中央部吹付面では亀裂や浮きがあり排水不良が原因と考えられるため排水対策のうえ吹付再施工が望ましい。全体として安定しており定期点検で対応し、維持管理による現状維持を図ることが重要である。	助言いただいたとおり、亀裂の調査箇所を増やし、計測データを経時的に確認していく。調査設計済み、工事予定。	
10	国道9号	国道9号観音峠盛土部路面沈下について	令和7年1月10日	関西大学 小山教授	平成8年度以降の防災カルテ点検及び特定土工点検においては、顕著なクラック等の進行が見受けられていないが衛星SAR解析の結果では、盛土部2箇所継続的な変位が確認されている。	路面沈下は緊急対応を要する段階ではなく、継続的な経過観察で対応可能と評価されている。円弧状や縦横のクラックが見られるが進行は確認されず、擁壁にも異常はない。排水状況を適切に維持することが重要で、盛土内への水の浸入防止やN値分布の把握などを行いながら慎重に監視することが望まれる。	診断結果に基づき対応、その後大きな問題なし。対策予定無し。	
11	(一)談夜久野線	ゆずりトンネル(談夜久野線)の覆工コンクリート背面の空洞について	令和7年1月20日	京都大学大学院 岸田教授	トンネル覆工補修工事中、2箇所の覆工背面に空洞が確認され、全面通行止めとなった。	覆工コンクリートに設計より大幅な厚さ不足や背面空洞が確認され、広範囲で打音異常も認められた。原因は施工時の充填不足と推定され、経年劣化の可能性は低い。全線調査で空洞状況等を把握し、応急対策後に恒久対策を検討する必要がある。施工中断箇所は危険なため補強し、対策期間中の定期できに確認を実施すべきである。	別途、委員会にて対策方法検討。対策工実施し、R7/11/4に通行止め解除。	
12	国道42号	国道42号和歌山県海南市冷水地先におけるL型擁壁等の変状について	令和7年3月27日	大阪産業大学 小田教授	L型擁壁について、令和4年10月の変位測定開始以降、断続的に変位が確認されている。この変位に伴い、路面等にも変状が生じている。	L型擁壁は土圧の影響による傾倒が考えられ、今後も応力増加に伴う変形や亀裂、転倒リスクが懸念される。テールアルメは排水機能は確認されるが外部からの水の侵入に注意が必要である。路面変状は局所的で緊急性は低く、当面は監視を継続し、排水対策や変位管理基準の設定により適切に維持管理を行うことが望まれる。	経過観測及び影響範囲の特定を実施中。	

※診断内容については、当日の現地調査で得られた情報に基づくものであり、今後の調査等の新たな情報等により診断結果が変更になる可能性があります。

【令和5年度】道路防災ドクター現地診断内容(1/2)

NO.	路線名	箇所名	現地診断日	診断ドクター名	変状内容	診断内容	診断後の実施内容	状況写真
1	国道25号	大阪府柏原市国分東条町地先法面崩落	令和5年6月3日	京都大学経営管理大学院 肥後教授	法面の表層に分布する崖錐堆積物が崩壊し、土砂の一部が道路に流入した。	現状ではさらなる大きな崩壊につながる可能性は低いと考えられること、落石シミュレーションの結果からも安全性が確保できると判断できるため、応急対策としては、土のう設置でよい。その後、適切な監視体制を構築したうえで、上部斜面の不安定な土砂の撤去、倒れそうな木の伐採等を行い、応急的な安全を確保すること。恒久対策としては、法枠工等の斜面安定対策を実施するのがよい。	崖錐堆積物層の層厚を確認したうえで、のり枠と鉄筋挿入工に対応する。	
2	国道42号	和歌山県東牟婁郡太地町森浦地先国道に平行する河川護岸の崩落	令和5年9月6日	和歌山工業高等専門学校 林教授	道路兼用護岸擁壁が崩壊し、路面が陥没した。	今回の被災は進行性があるものではないため、応急対策としては、現在実施している袋詰め玉石による対策で問題ない。路盤、舗装、防護柵の復旧が出来れば定期的な観察を行うこと。恒久的な対策は、大型ブロック積み擁壁またはもたれ擁壁と前面に根固めブロックを設置することで問題ない。	路面下の空洞の無いことを確認後、本復旧の検討を行う。	
3	国道26号	和歌山県和歌山市大谷地先軽量盛土の変状	令和5年10月5日	京都大学 大津名誉教授 和歌山工業高等専門学校 林教授	軽量盛土（EPS工法）の下方壁面材の損傷が顕著で、はらみ出し、破損等の変状が見られる。	化粧パネルを貼り付けたあとでコンクリート床版を載せたことで変状が発生したと想定される。施工当時の資料を再確認すること。漏水確認のため、側溝の目地を確認し、清掃を行うこと。変状はモルタル等で補修を行うこと。EPS材の材質劣化を防ぐため化粧パネルの補修を早期に行うこと。沈下量の計測については、補修後も引き続き実施すること。	診断結果に基づいて、計測および対策を実施していく。	
4	国道42号	国道42号 和歌山県那智勝浦町浦神道路横法面からの落石	令和5年10月12日	京都大学 大津名誉教授	道路横のり面で岩盤が崩壊し、落石が道路に到達した。	トプリングの崩壊形態が考えられるが、現時点では原因が不明であるため慎重に対応すべき事象である。応急対策としては、交通車両側に落石が到達する可能性が低いいため、大型どのうの設置のみでよい。ポケットやネットの裏にたまった落石、不安定な岩塊の撤去。現状のネットを活用しつつ、高エネルギー網やロープ掛工等を設置すること。	恒久対策工の比較検討を行い、対策を行う。	
5	国道28号	兵庫県淡路市釜口地先海岸擁壁の洗堀	令和5年10月26日	神戸大学 高田名誉教授 関西大学 楠見教授 神戸市立工業高等専門学校 鳥居教授	道路兼用護岸擁壁において張りコンクリート基礎部に洗堀が確認された。	現状見る限り道路への影響は問題ないとする。洗堀の発生時期が不明のため、月1回の巡視や台風等の直後に現地状況を確認すること。擁壁下部の洗堀が進行している場合は、応急対策として袋詰め玉石等による埋め戻しを行い、恒久対策としてコンクリートでの根固め工を行うこと。グラウンドアンカー工のアンカーキャップは早急に対策し、補修完了まで状態も確認すること。擁壁上部の路面の沈下状態も確認すること。	診断結果に基づいて、計測・点検および対策を実施していく。	

※診断内容については、当日の現地調査で得られた情報に基づくものであり、今後の調査等の新たな情報等により診断結果が変更になる可能性があります。

【令和5年度】道路防災ドクター現地診断内容(2／2)

NO.	路線名	箇所名	現地診断日	診断ドクター名	変状内容	診断内容	診断後の実施内容	状況写真
6	国道8号	福井県南条郡南越前町大谷地先斜面地すべりの観測	令和5年10月26日	福井大学 荒井名誉教授 立命館大学 小林教授 福井大学 藤本准教授	過年度に診断を受けた道路を横断する2箇所の地すべりについて、近年大きな変動が確認されていないため、観測頻度を見直したい。	観測頻度は年4回程度でよい。積雪時期でも温暖日の融雪があるため、リアルタイムによる動向確認は必要である。道路に亀裂が生じるなど動きがみられる箇所は、巡視の際に補助的に計測を行うこと。豪雨後および地震後の臨時点検も検討すること。大規模な地すべりであり、当面はモニタリングで様子を見ること。排水ボーリングが重要な働きをしているため、排水量を維持するために定期的な洗浄を検討すること。	診断結果に基づいて、モニタリングを継続していく。	
7	国道25号	奈良県奈良市中畑町盛土ランクダウン	令和5年11月15日	京都大学 大西名誉教授 大阪産業大学 小田教授 京都大学大学院 岸田教授	法枠内の土砂流出やのり面の侵食、縦排水路への土砂堆積、路面の軽微な亀裂変状が見られたため、H19の防災ドクターの助言をもとに水路の補修等の対策を実施済。その後大きな変状の進展は認められないため防災点検のランク変更を行いたい。	・盛土全体は安定している。地下水位は1年間の観測の結果、低いため、現状では構造物に悪影響はない。宙水については、安全計算により安全率が1.0を切る場合は、水抜きボーリングを実施すること。豪雨時に目地からの湧水を確認し、水量と土砂流出の有無を確認すること。	豪雨時に年2回程度の観測は引き続き継続する。「要対策」判定は「カルテ対応」判定に変更する。	
8	国道24号	国道24号 京奈和自動車道 紀の川IC路面変状	令和5年12月6日	京都大学 大西名誉教授	紀の川IC(オンランプ)の路面に連続した開口亀裂が発生した。	現地変状の状況から円弧すべりが発生している可能性があるが、原因を特定するためにはさらなる調査が必要である。そのため、ボーリング調査を実施し、すべりの範囲、変状原因を確認することが必要である。応急対策は、変状箇所からの水の浸透を防止し、さらなる変状進行を抑制すること。変状が進行している可能性があるため、動態観測により変状状況を把握し記録を残すこと。	診断に基づき変状箇所の動態観測、恒久対策のためのボーリング調査を実施。	
9	国道29号	兵庫県姫路市市倉字上ノ山姫路第二切土17法面変状	令和5年12月14日	神戸大学 沖村名誉教授 関西大学 小山教授 明石工業高等専門学校 鍋島教授	法面全体に亀裂と湧水跡が分布し、亀裂が顕著な箇所は吹付が浮いており、小破片の落下もみられる状態。	亀裂の状態から流紋岩の風化による崩壊の恐れは小さい。吹付けモルタルの施工にも問題ない。遊離石灰が多いことから水質の問題だと思われる。どのようなメカニズムで遊離石灰の発生が起きているのか、水質の変化を捉えていく必要がある。法面全体の変形の状況により対策方法を検討する必要があるため、定点を配置して測量等、少なくとも1～2年程度の間には変形を確認すること。	吹付片落下に対する応急対策を実施するとともに、全体の変形を捉えるための調査を検討する。	

※診断内容については、当日の現地調査で得られた情報に基づくものであり、今後の調査等の新たな情報等により診断結果が変更になる可能性があります。